第４章

中学校外国語科（英語）

1　静岡県が中学校外国語科（英語）で目指すもの

(1) 育てたい子どもの姿

静岡県は，小学校で育てた子どもの姿に加え，子どもたちが英語の学習を通して，次のア～ウのように育つことを目指します。

ア　コミュニケーションの広がりや深まりを「魅力的」だと感じる子ども

中学校の英語の学習では，子どもが相手と様々なコミュニケーション活動を繰り返し行うことで，お互いをよりよく理解し，関係が深まっていくことが期待されます。教科書を通して間接的に，また直接の交流活動等を通して，コミュニケーションの対象が学級の外の世界にも広がっていくことになり，世界中の人や様々な出来事と関わり合いたいという意欲が高まるでしょう。子どもは，言葉を通してお互いの思いを理解し合えたり，教科書に出てくる主人公と共感できたりすることで，コミュニケーションの可能性に気付き，英語を学習し，多様な「人・もの・こと」とコミュニケーションを図ろうとするのです。

さらに自分とは異なる文化や生き方，考え方をしている人とのコミュニケーションを通して，子どもは，多様なものの見方や考え方に対して寛容になったり，互いの価値観を尊重したりする態度を身に付けるでしょう。これは，自国の文化や外国の文化を大切に思う機会となり，国際協調の精神の育成につながります。

「人・もの・こと」と豊かに関わるコミュニケーション活動を通して，寛容性や協調性を育み，コミュニケーションの広がりや深まりを「魅力的」だと感じる子どもを育てましょう。

イ　英語の基礎的な運用能力を発揮する子ども

中学校において，教科として英語を学習することにより，子どもは基礎的な英語の運用能力を身に付け，小学校の時には言いたくても言えなかったことを表現できたり，知りたいのに分からなかったことが理解できたりするようになります。

コミュニケーションが広がり，深まるにつれ，自分の思いを分かりやすく伝えたり，相手の言いたいことを正しく受け止めたりするには，文字や語彙，様々な表現の知識が必要であることに気付くでしょう。

豊かなコミュニケーションを展開するためにも，学んだ語彙や表現を「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」のそれぞれにおいて活用し，４技能をバランスよく身に付け，場面に合わせて効果的に運用する力が必要です。

身に付けた英語の基礎的な運用能力を十分に発揮し，自分の思いを適切に伝え合うことができる子どもを育てましょう。

ウ　自ら学んでいくことができる子ども

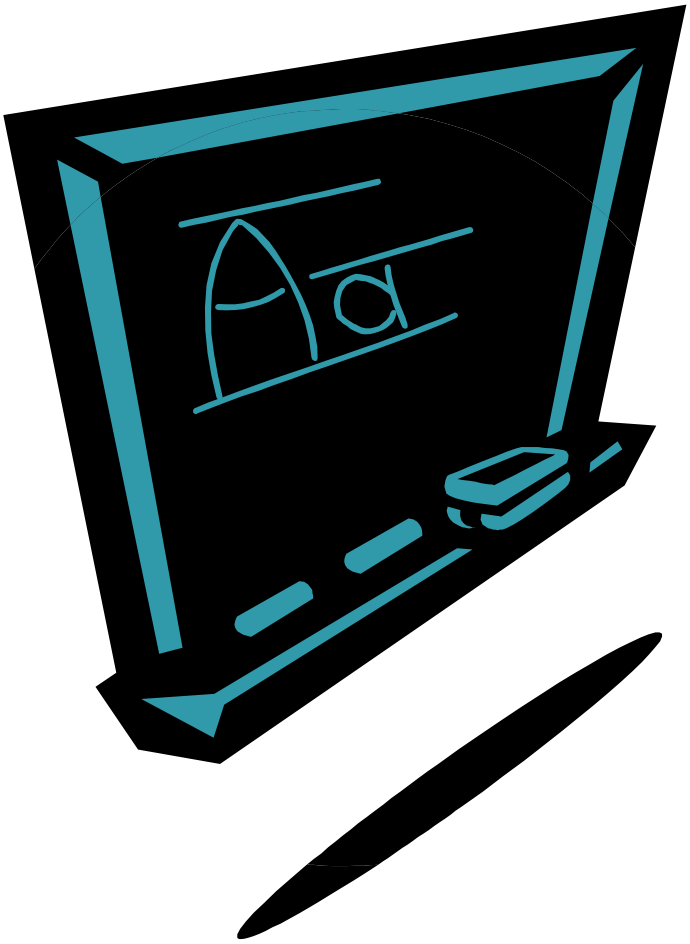
子どもは，英語の学習を通して「人・もの・こと」と関わることにより，多様なものの見方や考え方に触れ，「学ぶ」ことの魅力と必要性を理解します。

関わりの深まりが自分の成長につながることを実感した子どもは，分からないことや知りたいと思ったことをそのままにしないで，質問したり確認したりするでしょう。

また，英語によるコミュニケーションを通して得た成功体験は，子どもに自信を与え，答えや情報を求めて行動を起こしたり，自分の考えを発信したりすることのできる，主体的な学習者としての素地を育てる上で大いに役立ちます。

その結果，子どもは，他教科も含めて自発的に学習するようになり，その中で試行錯誤を繰り返しながら自分にあった学習方法を確立していくでしょう。

グローバル化の進展に伴う急速な社会の変化に対応して生きていくことができるよう，必要な知識や技能を自ら学ぼうとする姿勢を持ち，「学び方」を身に付けた子どもを育てましょう。



(2) 目指す授業

静岡県は子どもが前述のように育っていくために，外国語を用いて次のア～ウのような授業を目指します。

ア　コミュニケーションの楽しさを実感する授業

子どもがコミュニケーションの楽しさを実感できるよう，「伝えたい」「知りたい」という思いや意欲が高まる課題を設定しましょう。

そのためには，子どもの生活と結び付く場面や未知の世界と出会う場面において，相手と積極的に関わりながら，お互いの関係を深めていける活動に取り組ませる必要があります。

友だちについて新たな発見をしたり，自分らしさを十分に表現したりすることを通して，子どものコミュニケーションに対する期待感は，一層膨らんでいきます。同時に，言葉は，場面や状況があってこそ意味を伝えることが可能であることを体験的に理解するでしょう。

ここで言うコミュニケーションとは，直接的な交流に限られたものではありません。例えば，教科書を読む際に，子どもが主人公の生き方に心を揺さぶられ，自分と向き合い，自分の生き方を深く考えるとすれば，これも充実したコミュニケーションの一場面だと言えます。

子どもが言葉の機能や効果を実感し，人と主体的に関わる意欲を高めていけるように，場面や状況，対象，手だて，目的等を子どもの実態に合わせて適切に設定し，コミュニケーションの楽しさを味わうことのできる授業を目指しましょう。

イ　４技能の総合的な育成につながる授業

子どもの言語運用能力を高めるために，本時を通して付けたい力を明確にしましょう。その際には，学習内容や単元ごとのつながりを考慮し，４技能に軽重を付けて扱ったり，定着させたい言語材料を繰り返し扱ったりすることが大切です。

コミュニケーションの本質は「価値のある情報のやり取り」であり，「聞く」「読む」という「受けとめる活動」と，「話す」「書く」という「伝える活動」との有機的な組み合わせに，内容が伴って初めて，コミュニケーション活動と言えます。既習表現も使って，複数の技能を組み合わせ活用させる場面を設定し，まとまりのある深い内容のやり取りを行う中で，子どもの言語運用能力を伸ばしましょう。

４技能を総合的に育成するために，授業の中で子どもが触れる英語の量を十分に確保し，思考力・判断力・表現力等の育成を目指した具体的な言語活動を通して，子どもがコミュニケーションへの自信を深めることができる授業を目指しましょう。

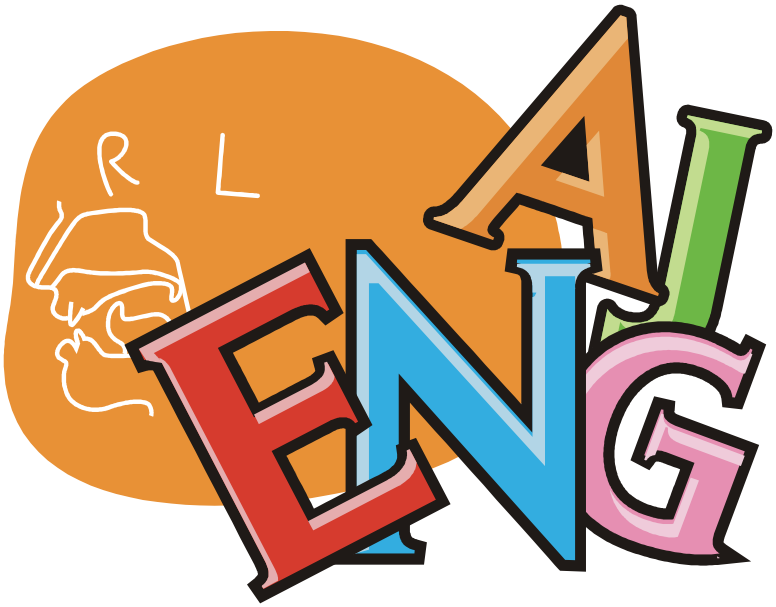
ウ　自律した学習者が育つ授業

「自律した学習者が育つ授業」であるためには，子どもが授業中に「主体的な学習」を経験し，その成果を「成功体験」として蓄積していく必要があります。その場面として，英語の授業は最適であると言えます。なぜなら，その中心が，言葉を通じて人とつながる喜びを体験するコミュニケーション活動であり，「成功体験」を味わう多くの機会を，子どもに提供できるからです。

コミュニケーションを成立させるためには，自分の能力を駆使し，様々な工夫を凝らす必要がありますが，このとき子どもは，まさに「主体的な学習」に取り組んでいます。また，努力の結果が，伝わった喜びに結び付くならば，それは「成功体験」そのものと言えます。英語の授業を通じて学びの成果を実感した子どもは，意欲的に次の学習へと向かっていくでしょう。

この「学びの実感」を家庭学習に結び付けるために，授業で学んだことが家庭学習に活き，家庭学習で学んだことが授業に還るという，スパイラルを確立することも大切です。自らの成長を確認し，自信をさらに深める機会を得ることで，子どもは学習の成果を一層実感するのです。

英語の授業を通じて，自律した学習者を育てましょう。



２　授業づくりに当たって

(1) 外国語活動とのつながり

外国語によるコミュニケーション活動を通じて「生きる力」の育成を図るには，校種間における指導の継続性が不可欠です。中学校で教科として英語を学び始める子どもたちが，外国語活動とのつながりを実感できるよう，外国語活動の指導方針，指導内容をきちんと理解しておきましょう。

ア　指導方針の継続性

外国語活動では，「コミュニケーション能力の素地」を育成し，人と関わることを魅力的だと感じる子どもを育てることを目指しています。子どもは，コミュニケーションの楽しさを実感する中で，言語や文化を体験的に理解します。

外国語活動を通して，コミュニケーションの成功体験を積み重ねてきた子どもは，満足感や達成感，自己肯定感を持ち，中学校での外国語学習に期待を持って入学してきます。中学校でも，生徒たちがこの思いを持ち続け，意欲的に学習に取り組むことができるよう，支援していくことが求められます。

子どもが，人と関わることを魅力的だと感じるためには，例えば，授業や単元の終わりに行うコミュニケーション活動において，誰もが最後まで相手との意思伝達を行い，やり切ったという成就感を持つことができるように指導することが大切です。正確さよりも，相互の意思疎通を重要視した言語活動を設定することが求められます。生徒が，自分の学習の進度と向き合いながらじっくりと伝えたい内容を考え，思いを膨らませ，「相手に意思が伝わった」「相手の思いが分かった」という成功体験を積み重ねていくことで，外国語を用いたコミュニケーションへの自信を持つことができるような授業を心掛けましょう。

イ　指導内容の継続性

英語ノートを利用した外国語活動を２年間行った場合，生徒は，500語近い英単語と自分のことを相手に伝える様々な英語表現に触れ，中学校に入学して来ることになります。小学校における外国語活動の成果を踏まえ，これを，中学校での英語学習への「のりしろ」として有効に活用するために，授業で行うコミュニケーション活動を意図的に取り入れましょう。

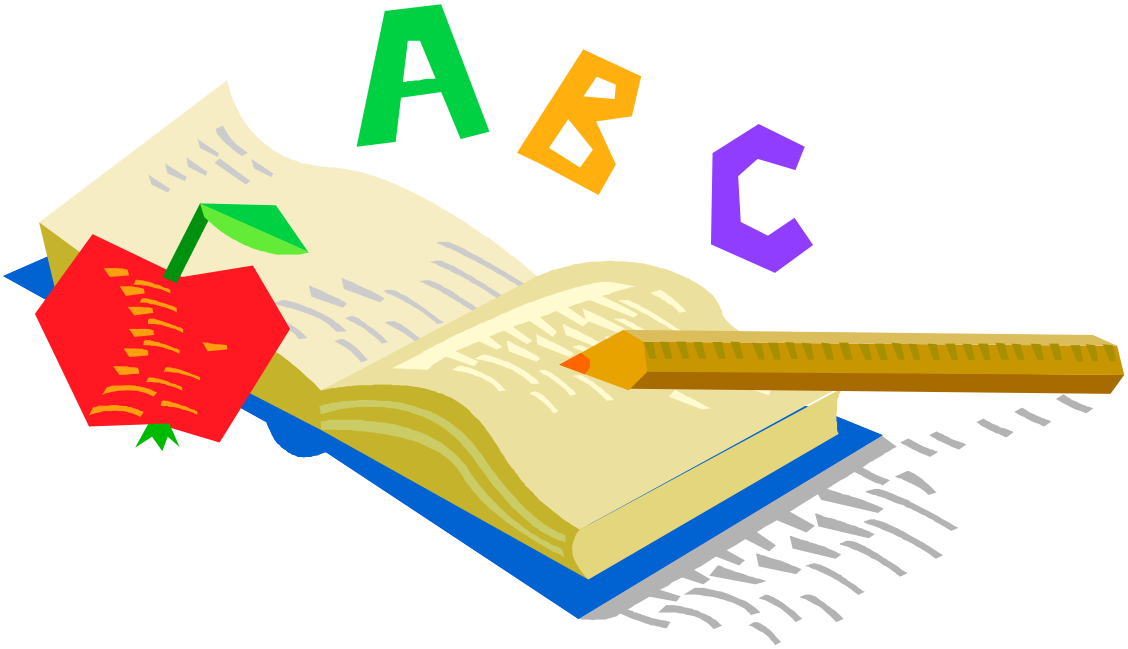
例えば，小学校卒業時に「自分の夢」についてスピーチを行った子どもの実態を捉え，小学校で扱った表現等を「自己紹介」の場面に取り入れた授業を中学校１年の１学期に行うなど，小学校から中学校への円滑な接続を図った活動を設定することは，大いに有効です。

中学校における英語学習がある程度進んだ段階においても、子どもが，小学校で慣れ親しんだ語彙や表現に繰り返し出会うことで，子どもの学びはより確かなものになります。身近な言語の使用場面や言語の働きを用いたコミュニケーション活動を行わせるために，ときには英語ノートを活用してみるのもよいでしょう。

ウ　文字の扱い

外国語活動におけるコミュニケーションでは，音声を手段とし，「伝えよう」「理解しよう」とする姿勢を大事にしています。文字は，音声によるコミュニケーションを補助するものであり，アルファベットの指導等に多くの時間を割くことはありません。

従って，中学校，特に接続期においては，文字の導入による子どもの混乱を避けるために，音声と文字のバランスに配慮することが必要となります。子どもが抵抗感を持つことなく，音声と文字の関係，綴りと発音の関係等が理解できるような指導を心掛けましょう。



(2) 年間指導計画

外国語科の学習指導要領では，３学年間を通して実現すべき目標が示されています。指導すべき内容についても学年ごとではなく，３学年間を通して示されているため，教師は３年間の見通しを持った上で授業に臨むことが必要となります。

ア　指導すべき内容

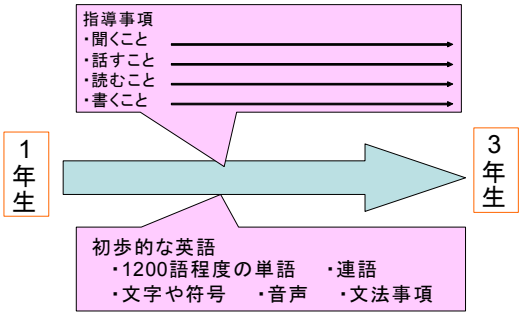
３学年間で指導すべき内容には，大きく分けて「言語活動における指導事項」「言語の使用場面や働き」「言語材料」の３つがあります。

外国語科の目標を受けて設定されている英語の目標には，「初歩的な英語」という文言が繰り返し用いられていますが，この「初歩的な英語」とは，以下のような言語材料のことを指しています。

音声	文字及び符号	語，連語及び慣用表現
◎現代の標準的な発音 ◎語と語の連結による音変化 ◎語，句，文における基本的な強勢 ◎文における基本的なイントネーション ◎文における基本的な区切り	◎アルファベットの活字体 ◎基本的な符号	◎1200語程度の単語 ◎連語 ◎慣用表現
文法事項		
◎単文，重文及び複文と，肯定文，否定文，疑問文，肯定及び否定の命令文　◎5種類の文構造と，There＋be動詞～，It＋be動詞＋～（＋for～）＋to不定詞，主語＋tell，wantなど＋目的語＋to不定詞　◎人称，指示，疑問，数量を表す代名詞と関係代名詞（主格のthat，which，who及び目的格のthat，whichの制限的用法）　◎現在形，過去形，現在進行形，過去進行形，現在完了形及び助動詞などを用いた未来表現などの動詞の時制　◎形容詞及び副詞の比較変化　◎to不定詞　◎動名詞　◎現在分詞及び過去分詞の形容詞としての用法　◎受け身		

※中学校学習指導要領解説「②(③)言語材料」(P29～)参照

これらの初歩的な英語を用いて，「話し手や書き手の意向などを理解できるようにしたり，自分の考えなどを話したり書いたりできるようにする」ことが目標となります。そのためには，単にそれぞれの技能を用いた活動を行うのではなく，「２(1)言語活動」（中学校学習指導要領解説P９～）に示されている領域ごとの指導事項を意識して言語活動を充実させていくことが大切です。



【4領域の指導事項】

領域	指　導　事　項
聞くこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。 (ｲ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。 (ｳ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 (ｴ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。 (ｵ) まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。
話すこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。 (ｲ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。 (ｳ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べあったりすること。 (ｴ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。 (ｵ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。
読むこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。 (ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，その内容が表現されるように音読すること。 (ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。 (ｴ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。 (ｵ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。
書くこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 (ｲ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。 (ｳ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。 (ｴ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。 (ｵ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

また，実際に言語活動を行う際には，以下のような使用場面や言語の働きを取り上げるようにします。

言語の使用場面の例	言語の働きの例
◎挨拶，自己紹介，電話での応答，買物，道案内，旅行，食事など，特有の表現がよく使われる場面 ◎家庭での生活，学校での学習や活動，地域の行事など生徒の身近な暮らしにかかわる場面	◎コミュニケーションを円滑にする ◎気持ちを伝える　◎情報を与える ◎考えや意図を伝える ◎相手の行動を促す

イ　年間指導計画

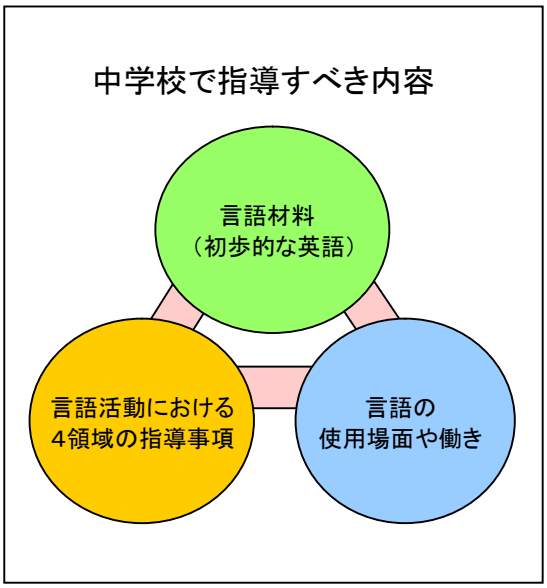
「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」という目標の達成には，

「初歩的な英語」を用いて，

「４領域の指導事項」を意識しながら，

「言語の使用場面や言語の働き」を取り上げ，

言語活動を充実させていくことが必要となります。



英語の教科書は，文法シラバスとなっているため，言語材料は計画的･系統的に学習されることとなります。言語の使用場面や言語の働きに関しては，教材に含まれていることもありますが，言語活動の場面設定等を行う際に，これらを取り上げるとよいでしょう。４領域の指導事項に関しては，指導者が意図的・計画的に指導していく必要があります。

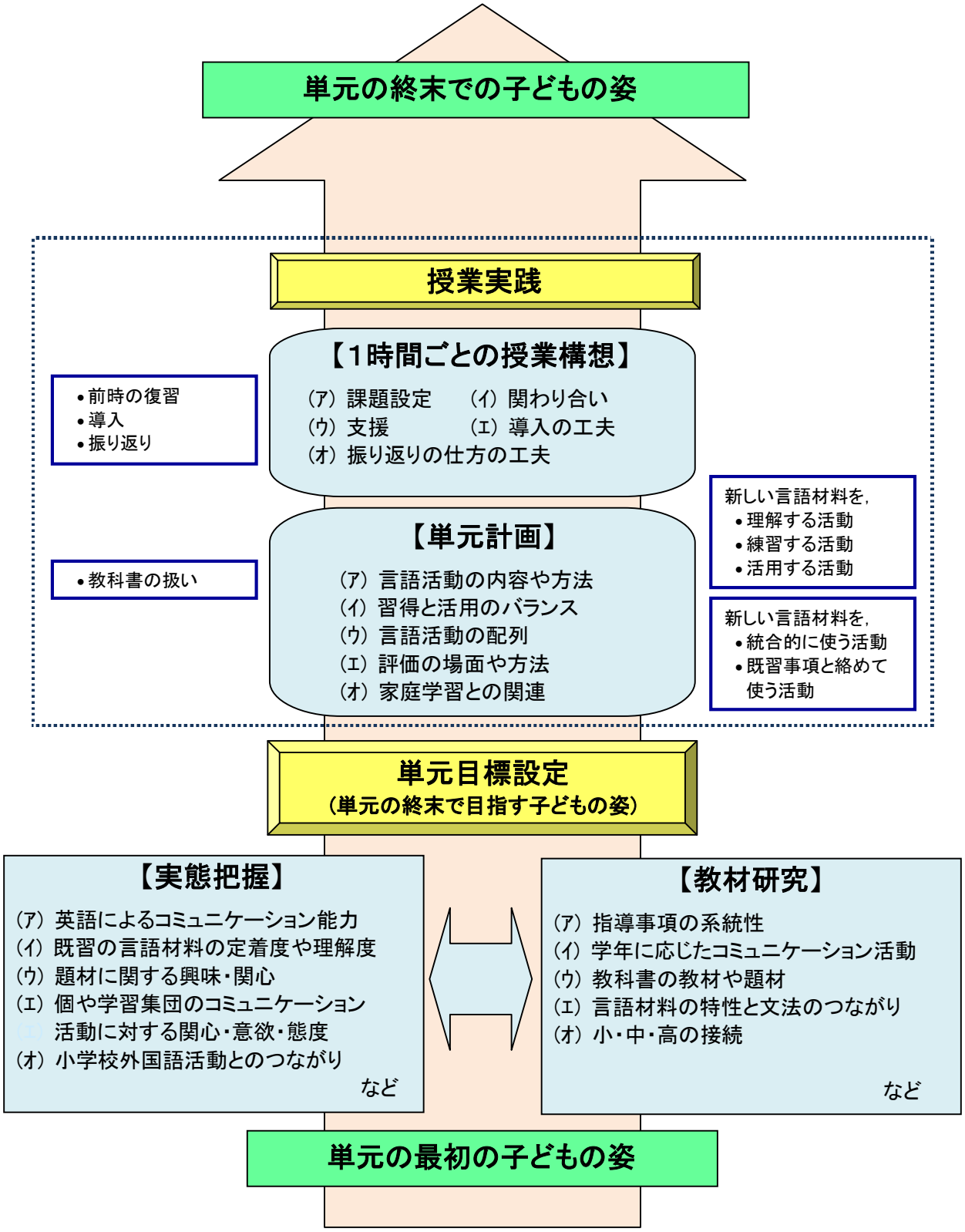
各学校において学年ごとの目標を適切に定め，４領域の活動のバランスや技能ごとの指導事項に配慮した年間指導計画を作成しましょう。

【年間指導計画の例】

単元	目標	言語材料	題材や教材の内容	主な学習活動	評価規準	評価の観点						
						関心・意欲・態度	表現			理解		知識・理解
							話す	読む	書く	聞く	読む	
L１	(1)・・ (2)・・(話ｳ) (3)・・(聞ｳ) (4)・・					○	◎			○		○
L２	(1)・・ (2)・・(書ｴ) (3)・・ (4)・・					○			◎	○		○

(3) 単元構想と１時間ごとの授業構想

新しい単元に入る際には，年間指導計画をもとに単元構想を行います。子どもの実態把握及び教材研究と合わせて単元目標を設定し，その目標に到達するための単元計画を立て，さらに１時間ごとの授業を構想していきます。



ア　実態把握

年間指導計画に基づいて単元目標や計画を考えていきますが，付けたい力を明確にし，子どもが主体的に学習に取り組んでいけるようにするためには，子どもの実態を把握することが必要となります。外国語科（英語）では，以下のような視点で実態を把握していきます。

(ｱ) 英語によるコミュニケーション能力

英語によるコミュニケーション能力については，４技能に関するそれぞれの実態を把握することが必要です。定期的に行うテストや，特に「話すこと」「聞くこと」に関しては，授業中の活動の様子を観察することで把握できます。４技能を総合的に育成していく観点から，得意な技能はさらに伸ばし，不十分な技能については意図的に手厚く指導しましょう。

(ｲ) 既習の言語材料の定着度や理解度

既習の言語材料の定着度や理解度についても，定期的に行うテストや授業中の見取り等で把握することができます。定着度や理解度が低い場合，本単元の文法事項と関連する内容については，まとまりのある文法事項として学び直しをします。また，本単元の言語活動の中にこれまでの言語材料をスパイラルに取り入れることで，定着を図っていきましょう。

(ｳ) 題材に関する興味・関心

題材については，中学校学習指導要領解説（P50）の中で，「英語を使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化や自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし…」とあります。子どもの発達の段階，興味・関心について十分に配慮しつつ，英語の目標に照らして適切な題材を取り上げ，言語や文化に対する理解を深めていきましょう。

(ｴ) 個や学習集団のコミュニケーション活動に対する関心・意欲・態度

コミュニケーション活動に対する関心・意欲・態度は，子どもによって異なります。また，子どもたちが所属する学習集団の特性もまた，発達段階や，地域，人数等により異なってきます。それぞれの学習集団がどういったコミュニケーション活動を行うことが効果的であるのかを考慮することにより，豊かなコミュニケーション活動が円滑に展開されていきます。

(ｵ) 小学校外国語活動とのつながり

学習指導要領の改訂により，小学校に外国語活動が導入されたことから，特に音声面でのコミュニケーション能力の素地が育成されてくることが期待されます。子どもたちが在籍していた小学校での外国語活動を参観したり，特に１年生の英語学習

外国語活動の成果
（平成22年度中核教員研修参加教員アンケートより）
- 英語を使ってコミュニケーションを取ろうとしている。
- 「伝えよう」という気持ちや態度が育ってきた。
- コミュニケーションを楽しみ，思いを伝えられるようになった。
- ALTに慣れて進んで接している。
- ALTの話が分かるようになってきた。

の導入段階で音声によるコミュニケーションを積極的に取り入れたりすることで，子どもたちの音声面でのコミュニケーション能力を把握します。音声によるコミュニケーションにどれくらい慣れ親しんでいるのかを的確に把握することで，小学校での外国語活動の成果が中学校の外国語科において生かされてきます。

イ　教材研究

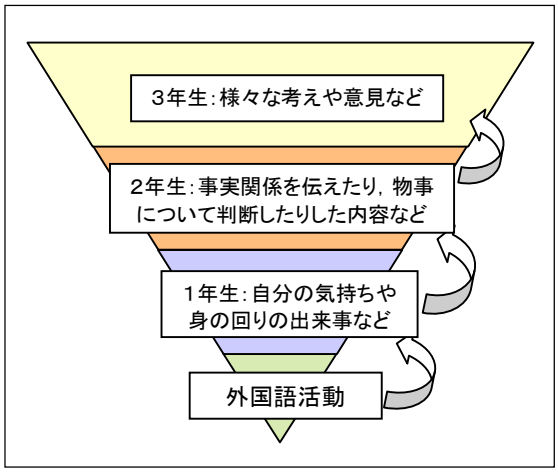
外国語科（英語）の教材研究としては，教科書の教材や単元で扱う言語材料が挙げられます。それに加え，適切な単元目標と単元計画を考えていく上で，３学年間の学びの見通しについても考える必要があります。付けたい力を明確にし，子どもに英語の運用能力を確実に身に付けさせていくために，教師は，以下のような視点で，教材研究を行うことが必要となります。

(ｱ) 指導事項の系統性

43ページの「４領域の指導事項」については，学年ごとに示すのではなく，３学年間を通して一括して示すことで，教師が創意工夫をしやすい構成としています。年間指導計画に基づいて，本単元で重点的に扱う領域を確認し，どの指導事項で扱うかについても明確にする必要があります。さらに，各指導事項についても学年の学習段階に応じて扱い方が異なってきます。これらを明確にすることで，付けたい力が焦点化され，どのような言語活動を行えばよいかが明らかになってきます。

(ｲ) 学年に応じたコミュニケーション活動

中学校学習指導要領解説（P28）には，各学年の指導における配慮事項が示されています。これは，コミュニケーションを図れるような話題を，各学年の学習段階に応じて取り上げるよう求めたものです。習得している言語材料やコミュニケーション能力の発達の段階も異なりますから，１年生と３年生では同じような言語活動にはなりません。現段階で，どのようなコミュニケーション活動ができるようにしたいのか見極める必要があります。



(ｳ) 教科書の教材や題材

教科書の教材の内容には，異文化や日本文化，世界平和等，様々なメッセージが込められています。それらのメッセージを子どもたちが理解し，表現していくためには，どのような言語活動を行うことがよいかを考えていくことが必要です。単に教科書の文を理解することにとどまらず，その題材について考えたり表現活動を行ったりすることで，教材に命を吹き込みます。教材の中の人物と対話したり内容について深く考えたりすることで，題材によっては，自分の生き方についても見つめ直していく機会にもなります。そのためには，まず教材のメッセージを教師が的確に捉え，教材について深く理解することで，知的な側面における発達の段階に応じた言語活動が考えられます。

(ｴ) 言語材料の特性と文法のつながり

本単元で学習する文法や単語などの言語材料は，日常生活の中で，どういった場面やテーマで使用されるかについて考えることが必要です。自然に，かつ何度も使用できるような言語活動を設定することで，日常生活と結び付けながら，子ども自らが表現内容を考え，言語材料の定着を図ることができます。

また，文法のつながりについては，中学校学習指導要領解説(P46)に「英語の特質を理解させるために，関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること。」とあります。既習の文法との関連を整理し，言語活動にも生かしていくことで，定着が一層図られていきます。

(ｵ) 小・中・高の接続

本単元で扱う言語材料が，小学校の外国語活動でどのように使われていたかを把握することで，外国語活動で育まれたコミュニケーション能力の素地を生かすことができます。特に１年生の英語学習導入時には，英語ノートで扱われている活動を取り入れたり，少し変えて行ったりすることで，子どもは安心して活動に取り組むことができます。さらに，高等学校での表現方法の広がりを見通すことで，中学校段階で学習すべき内容が明らかとなります。

ウ　単元目標

年間指導計画に基づき，子どもの実態把握と教材研究を行いながら，単元の目標と，その目標に到達するための言語活動を考えていきます。その際，どの技能のどんな力を付けたいのかについて明確にすることが大切です。また，具体的な活動を想定し，以下の評価の観点に即した評価規準を明確にしておくことが必要です。

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして，自分の考えなどを表現している。	外国を聞いたり読んだりして，話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身に付けているとともに，その背景にある文化などを理解している。

（評価については，補足資料５を参照）

どの単元においても４領域の活動は行いますが，３学年間を通じて４技能をバランスよく育成することから，単元によって，重点となる技能を絞ることが効果的です。

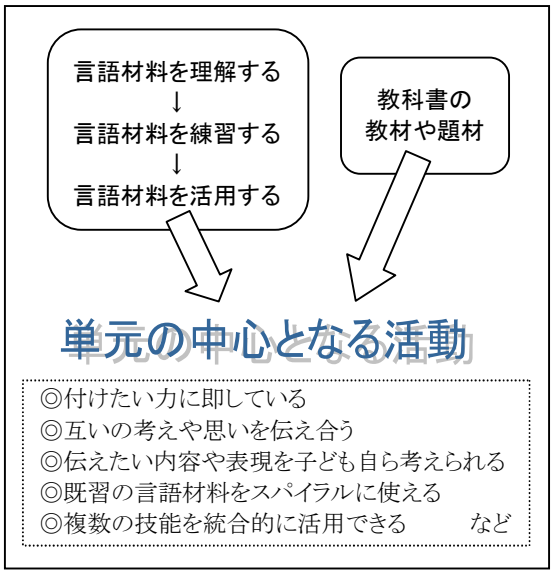
エ　単元計画

授業では，新しい言語材料を理解し練習する活動（習得）と，さらにそれを用いて互いの考えや意見を伝え合う活動（活用）があります。また，教科書の内容理解や，活動に向けての導入，振り返り，言語材料の復習やウォームアップ，ドリル的な活動等も考えられます。これらの様々な言語活動を以下のようなことに考慮しながら，単元計画を立てていきます。

単元目標に到達するための具体的な単元の流れを考えることで，１時間ごとの授業が単発的にならず，子どもは次時の授業へ気持ちをつなぎ，主体的に取り組んでいくことができます。

(ｱ) 言語活動の内容や方法

最初に，本単元で身に付けさせたい力を身に付けた子どもの姿をイメージして，単元の中心となる活動を設定します。単元の中心となる活動は、「読むこと」に重点をおいた単元を除いて、互いの考えや思いを伝え合う活動となります。



互いの考えや思いを伝え合う活動においては、子どもの「伝えたい」という意欲が高まるよう，伝える内容を子ども自らが考え，それにふさわしい表現方法を子ども自ら選択できるような課題にします。その中で，既習の言語材料をスパイラルに使用したり，４技能を統合的に活用したりすることで，定着が図られます。より豊かに表現するために，辞書を適宜活用することも必要でしょう。

また，互いの考えや思いを伝え合うことに対する心理的なハードルを下げ，一人一人が伝える立場となる機会を十分に持つことが可能となるよう，ペアワークやグループワークなどの学習形態を効果的に取り入れることも考えられます。

中心となる活動に至る過程での言語活動においても，子どもが自信と意欲を持って取り組めることを念頭に内容や方法を決定し，費やす時間や触れる英語の量を十分に確保することが重要です。

(ｲ) 習得と活用のバランス

言語活動の内容や方法を考える際，習得と活用のバランスについて配慮する必要があります。新しい言語材料を知り，理解した後，すぐに活用させていくことは子どもにとっては難しいことです。同じ表現を，方法を変えて繰り返し練習したり，単語を置き換えて言ったり書いたりするなど，４技能を通じて新しい言語材料に慣れ親しませていくことは，その後のコミュニケーション活動をより豊かにしていくためにも必要なことです。

さらに，習得した言語材料を場面に応じて使う活動や，既習の言語材料と合わせて活用していく活動を取り入れることで，言語材料の定着と，コミュニケーション能力の育成が図られていきます。

(ｳ) 言語活動の配列

言語活動を配列していく際，子どもの学びや思いの流れを考慮することが大切です。主な文法事項を単元の最初や途中でまとめて扱うことが効果的な場合と，１つずつ扱うことが効果的な場合とがあります。また，教科書を扱った言語活動も効果的に取り入れる必要がありますが，物語など教材の内容によっては，できるだけ続けて読みたいものもあります。これらの言語活動を配列していく際，文法事項や教材の特徴によって工夫していくとよいでしょう。

なお，教科書を扱う際には，基本的に「聞くこと」と「読むこと」の２つの領域の活動が考えられますが，付けたい力によって教科書の扱いも変わってきます。例えば，本文を理解する場合，質問をあらかじめ与え，ポイントを絞って聞いたり読んだりする方法や，あらかじめポイントを絞らず要点や概要をつかむ方法などが考えられます。また，音読により表現する活動にも効果的に使うことができます。教材の特徴や学習の段階に応じて工夫していくとよいでしょう。

【言語活動の配列の例】

教科書本文の理解と，新しい言語材料の習得・活用を，並行して行う場合

時	主な活動	
1	●(1)の本文理解【聞くこと】 ●役割に分かれて本文音読【読むこと】	習得
2	●(1)(2)の文法事項を習得するための活動とQA活動【話すこと】 ●(2)の本文理解【聞くこと】	
3	●(1)(2)の文法事項を活用するコミュニケーション活動【話すこと，書くこと】	活用
4	●(3)の本文理解【聞くこと】 ●(3)の文法事項を習得するための活動 ●役割に分かれて本文音読【読むこと】	習得
5	●(1)～(3)の文法事項が活用されるようなスキット作り（単元の中心となる活動）【書くこと】	活用
6	●スキットの発表【話すこと】 ●確認小テスト	

教科書本文の理解と，新しい言語材料の習得・活用を，それぞれまとめて行う場合

時	主な活動	
1	●(1)～(3)の文法事項を習得するための活動【書くこと】	習得
2	●(1)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【書くこと】	習得・活用
3	●(2)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【話すこと】	
4	●(3)の文法事項を習得するための活動と活用するための活動【書くこと】	
5	●(1)(2)の本文理解【読むこと】 ●本文の内容に関連した表現活動【書くこと】	
6	●(3)の本文理解【読むこと】 ●本文の内容に関連した表現活動【書くこと】	
7	●単元の題材に関連した表現活動（単元の中心となる活動）【書くこと】	活用
8	●書いた文を互いに読み合う活動【読むこと】 ●確認小テスト	

＊(1)～(3)は，単元の中の区切り（セクション，パート等）をあらわす。

(ｴ) 評価の場面や方法

単元の中で行う活動をすべて評価するのではなく，評価規準に即しながら，ポイントを絞って評価していくことで，評価がより客観性と妥当性を持ったものになります。単元計画を考える際に，評価の場面や方法をあらかじめ構想しておくことで，子どもの見取りが的確に行われます。さらに，単元を見通した支援を構想することもできます。

(ｵ) 家庭学習との関連

家庭学習を授業内容と連動させることは，意欲的に家庭学習に取り組むことにもつながります。家庭学習の方法を指導し，習慣付けることは，生涯にわたって英語学習をしていくための基盤ともなります。

オ　１時間ごとの授業構想

単元目標と関連付けて１時間の授業の目標を設定し，授業展開を考えていきます。本時の目標を設定する際にも，評価の観点を意識することで，付けたい力が明確になります。また，本時の目標に到達したのか確認する場面（評価の場面）を授業の中で位置付けておくことも必要です。

本時の展開を考える際にも，教材研究や実態把握を行いますが，子どもが「伝えたい」「知りたい」などのような思いを持ち，それを継続させながら主体的に学んでいくための手だてを講じることで，子どもは学びの実感を積み重ねていくことができます。

(ｱ) 課題設定

まず，単元計画と本時の目標に基づいて，本時の課題を設定します。本時の目標の到達に向かうものであると同時に，子どもが主体的に取り組めるような課題にすることが大切です。

次に，活動の内容や方法を考えます。その際，ワークシートを埋めていくだけの作業的なものとならず，子どもができるだけ頭を働かせ，目，耳，口，手などを使わせるよう心掛けましょう。そうすることで，言語活動を行うことを通して，思考力・判断力・表現力等も養うことができます。そのためには，子どもができるだけ多くの英語に触れられるようにすることが必要です。日常生活で英語を使うことがほとんどない日本の社会においては，授業が英語を使ってコミュニケーションを行う大切な場なのです。

(ｲ) 関わり合い

様々な言語活動を行う際には，子ども同士の関わり合いを活かす工夫を行いましょう。外国語科の中での言語の役割は，コミュニケーションのツールとしての役割が大半を占めます。コミュニケーションのツールとして，４つの技能を駆使して関わり合うことで，英語もお互いの思いを伝え合う大切な言葉であることを実感します。また，よりよい表現方法を見つけたり，より理解を深めたり，学習意欲を継続させたりするためにも，子ども同士の関わり合いは不可欠です。

(ｳ) 支援

言語活動を考える際には，同時にどこで子どもがつまづくかを予想し，適切な支援を構想しておくことが必要です。言語活動に対する意欲やコミュニケーション能力に差があるのは当然です。授業中は，本時の目標に照らして一人一人を見取り，支援をしていきますが，構想の段階で支援について考えておくことで，子どもを見取る視点が明らかとなります。教師の細やかな支援や共感により，子どもは導入段階で持った意欲を継続し，本時の目標に迫っていくことができます。

(ｴ) 導入の工夫

本時の課題への導入を考えます。本時の課題の内容を知り，それに向けての意欲付けの時間として重要な役割があります。「自分だったらこんなことを表現したい。」「自分だったらこんなことを聞いてみたい。」などのような思いを持たせることで，主体的に学んでいくことができます。ここで，ALTの協力を得たり，ICTを使ったりするのも効果的です。

（オ）振り返りの仕方の工夫

授業の終末では，振り返りを行います。本時の目標に照らして振り返りの仕方を工夫しましょう。例えば，新出文法事項の理解が目標である場合には，文を幾つか書いてみることで，理解の確認をすることができます。書く力を伸ばすことが目標である場合には，課題に即して自分の書いた英文を読み返すことによって，自分の書く力を確認することができます。話す力を伸ばすことが目標である場合には，自分の話した内容を書いてみることで，自分が正しく話せていたのかどうかを確認することができます。これらは，子どもが自己評価すると同時に，本時の目標への到達状況を見取る場面ともなります。

これらの様々な視点を考慮しながら，年間指導計画に基づいて，授業を構想していきます。これらの視点以外にも，学校教育目標や研修テーマは，各学校の子どもの実態に基づいて設定されたものであるため，単元計画や授業展開を考える上で，課題の設定や授業の形態，動機付け，振り返り等における工夫も必要です。

また，授業実践の途中で子どもの実態を見ながら単元計画を変更していくことも必要です。

(4) 言語活動を充実させていくために

言語活動の在り方について，先のページで簡単に触れましたが，言語活動の内容を充実させていくためのポイントを補足しておきます。

授業中に行う言語活動を，英語の目標の達成に結び付けるためには，それぞれの言語活動の目的や意味を明確にしておかなければなりません。そのためには，子どもにどんな姿で活動してほしいのかを具体的にイメージしておくことが必要です。このイメージがあるからこそ評価規準を適切に設定することが可能となり，言語活動の内容や方法を適切に設定することが可能となるのです。

これに加え，領域ごとに留意すべき点もあります。

「聞くこと」では，音声のみで伝えられる情報でも正確または適切に理解できる手だてを講じる必要があります。例えばまとまりのある英文を聞かせる場合には，あらかじめヒントとなるような情報を与えておいたり，聞き取りのポイントを示したりすることで，聞くことに集中させることができます。

「話すこと」では，文字に頼らずに情報や思いを伝えることに挑戦できるだけの自信を与えることと，相手に伝えたいと思えるような価値ある情報を持たせることが必要となります。まずはマッピング等により伝えるべき内容，受けとめるべき内容を具体的に示し，伝えたいという思いをふくらめましょう。その上で，それを伝えるための表現を繰り返し練習させ，十分に慣れ親しませた上で，話す活動を行います。また，安心して発話するための形態等の工夫も必要です。

「読むこと」では，単なる英文和訳で終わるのではなく，話の内容がイメージ化できるような工夫が必要となります。物語なら，登場人物や話の背景を事前に説明することで物語の流れをつかみやすくしたり，形容詞や副詞に注目させることで登場人物の心情を理解する手助けをしたりすることができるでしょう。説明的な文章なら，全体の構成や段落間の関係を把握し，各段落の重要な部分を見つけていくことで，ポイントとなる情報を落とさずに読み進めていくことが可能となります。人物について書かれた文章は，登場人物への共感を持って読ませることで，自分のことを振り返る機会となるでしょう。

「書くこと」では，書き直したり吟味したりすることで，よりよい作品に仕上げることが大切です。その際，改善のための視点をきちんと示すことができるかどうかで，活動の効果は大きく左右されます。例えば，正確な文を書くことが目的なら，その授業で正しく使わせたい文法事項をきちんと伝えます。まとまりのある文を書かせたいなら，接続詞の効果的な使用や，相手にとって分かりやすい段落構成を意識させます。

以上をもとに，学年の学習段階や子どもの実態に合わせた言語活動を設定します。

(5) 効果的なコミュニケーション活動づくり

ア　学習指導要領との関係

授業づくりにあたっての使いやすさを考慮して，学習指導要領では４領域ごとに示されている言語活動の指導事項を，媒体と活動内容により再分類しました。（下記「一覧」，次ページ「対応表」参照）

(ｱ) 媒体

「聞くこと」「話すこと」を「音声」に，「読むこと」「書くこと」を「文字」に集約しました。ただし，「読むこと」の(ｲ)については，前半を「文字」，後半を「音声」とします。

(ｲ) 活動内容

場面設定やメッセージのやり取りが必ずしも必要でないものを「基礎練習」，それ以外を「コミュニケーション活動」としました。結果的に，各領域(ｱ)の項目と「基礎練習」が一致することになりました。

(ｳ) コミュニケーション活動

各領域の指導事項(ｲ)～(ｵ)を，「受けとめる（外国語理解）」「伝える（外国語表現）」に振り分けました。なお，「読むこと」の(ｲ)については，前半を「受けとめる」，後半を「伝える」に分割しています。

【一覧】

媒体	活動内容		
	基礎練習	コミュニケーション活動	
		受けとめる(外国語理解の能力)	伝える(外国語表現の能力)
音声	• 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取り，発音すること。 【聞く(ｱ)】【話す(ｱ)】	• 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。【聞く(ｲ)】 • 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。【聞く(ｳ)】 • 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。【聞く(ｴ)】 • まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。【聞く(ｵ)】	• 書かれた内容が表現されるように音読すること。【読む(ｲ)後半】 • 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。【話す(ｲ)】 • 聞いたり読んだりしたことについて，質問したり意見を述べあったりすること。【話す(ｳ)】 • つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。【話す(ｴ)】 • 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。【話す(ｵ)】
文字	• 文字や符号を識別し，正しく読み，語と語の区切りなどに注意して書くこと。 【読む(ｱ)】【書く(ｱ)】	• 書かれた内容を考えながら黙読すること。【読む(ｲ)前半】 • 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。【読む(ｳ)】 • 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解して適切に応じること。【読む(ｴ)】 • 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，描かれた内容や考え方などをとらえること。【読む(ｵ)】	• 語と語のつながりなどに注意して正しく文章を書くこと。【書く(ｲ)】 • 読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。【書く(ｳ)】 • 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。【書く(ｴ)】 • 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。【書く(ｵ)】

【対応表】

学習指導要領			授業づくり指針
領域	指導事項		技能(媒体)
聞くこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく聞き取ること。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，情報を正確に聞き取ること。		受けとめる・音声
	(ｳ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。		
	(ｴ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。	⇒	
	(ｵ) まとまりのある英語を聞いて，概要や要点を適切に聞き取ること。		
話すこと	(ｱ) 強勢，イントネーション，区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ，正しく発音すること。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 自分の考えや気持ち，事実などを聞き手に正しく伝えること。		伝える・音声
	(ｳ) 聞いたり読んだりしたことについて，問答したり意見を述べあったりすること。		
	(ｴ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。	⇒	
	(ｵ) 与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること。		
読むこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，正しく読むこと。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 書かれた内容を考えながら黙読したり，	⇒	受けとめる・文字
	その内容が表現されるように音読すること。	⇒	伝える・音声
	(ｳ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。		受けとめる・文字
	(ｴ) 伝言や手紙などの文章から書き手の意向を理解し，適切に応じること。		
	(ｵ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などをとらえること。	⇒	
書くこと	(ｱ) 文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意して書くこと。	⇒	基礎練習
	(ｲ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。		伝える・文字
	(ｳ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり，感想，賛否やその理由を書いたりなどすること。		
	(ｴ) 身近な場面における出来事や体験したことなどについて，自分の考えや気持ちなどを書くこと。	⇒	
	(ｵ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように，文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。		

イ　レベル・コントロール

コミュニケーション活動については，次の２つの尺度を用いて難易度を調整します。授業の際の生徒の様子に応じて難易度が調整できるよう，複数のパターンを用意しておきましょう。

(ｱ) closed ― open

受けとめ・伝えるべき内容やその目的など，何をすればよいかが具体的に示されている場合をclosed，漠然としている場合をopenと捉えます。openの度合いが強まるほど，難易度も高くなります。

(例) 駅で流される列車の遅延情報を聞き，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を知る。

closed		open
駅で流される列車の遅延情報から，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を聞き取ろう。	駅で流されるアナウンスから，乗車予定の列車の到着時間と発着ホーム番号を聞き取ろう。	駅で流されるアナウンスを聞いて，概要をまとめよう。	英文を聞いて，概要をまとめよう。

（ｲ）prepared — impromptu

受けとめ・伝える際に，十分な準備が可能な状況をprepared，即時的対応が必要な状況をimpromptuと捉えます。impromptuの度合いが強まるほど，難易度も高くなります。

（例）自己紹介をする。

prepared

原稿を作成し，それを基にスピーチする。
要点メモを作成し，それを基にスピーチする。
紹介する項目のリストを作成し，それを基にスピーチする。
要求された項目について，その場でスピーチする。

impromptu

ウ　効果的なコミュニケーション活動の実例

コミュニケーション活動の具体例及びレベル・コントロールの手法（一部）を示しました。

（ｱ）受けとめる（外国語理解の能力）

【活動例１】ミッション・ポシブル

◎指示を聞き取って（指令書を読み取って），そのとおりに行動する。

prepared

closed

指示のとおり行動する。 Open the window.	指示された状況に対応する。 It's really hot in this room.

open

impromptu

※聞き取って（読み取って）すぐ行動するため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例２】犯人を捜せ

◎複数の容疑者の昨夜の行動を聞き（読み），強盗犯を割り出す。

prepared

closed

「強盗事件容疑者のアリバイ証言から，犯人を特定せよ。」	「話を聞いて，条件に合う人物を選べ。」

open

impromptu

※行動を聞きながら（読みながら）犯人を捜すので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例３】どっちで買いまshow?

◎２つのスーパーの売り出し広告を比較し，自分がつくりたいメニューの材料を買うにはどちらに行ったらよいかを考える。

prepared

closed

メニューは事前に決め，必要な材料をピックアップしておく。	広告を見て，メニューを決める。

open

impromptu

【活動例４】天気予報マップをつくろう！

◎世界の天気予報を聞き，お天気マップを作る。

prepared

closed

言及のある国・地域や 聞き取るべき項目を具体的に示す。 空所補充式の記入用マップを配布する。	言及のある国・地域や 聞き取るべき項目は示さない。 白地図に記入させる。

open

impromptu

※天気予報を聞きながらマップをつくるので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例５】これは何のコマーシャル？

◎コマーシャルを聴き（広告を読み），それが何を宣伝しているのか当てる。

（例）　This is a very exciting news for you.　We use very fresh potatoes and we fry them with nice oil.　We have new flavor “Pizza taste.” You should try this!!　If you eat this, you’ll be so happy!　（potato chips ／ ポテトチップ）

prepared

closed

どんな食べ物のCMかを 当てる。	何のCMかを 当てる。	何について話しているかを 当てる。

open

impromptu

※コマーシャルを聞きながら推測するので，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例６】information gap

◎「自分に必要な情報を相手が知っている」という状況を設定し，必要な情報を集める。
３人で行うなら，生徒Ａの必要な情報を生徒Ｂと生徒Ｃに振り分ける。

（例）３人の場合　Ａ：Who is the girl with long curly hair?
Ｂ：I don’t know. How about you, C?
Ｃ：Oh, she is Mary.

prepared

closed

誰が何を知っているかを明らかにする。	誰が何を知っているかを伏せておく。

open

impromptu

※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例７】jumble story

◎教科書の本文や物語などが分割された一部を持ち合い，お互いの持っている部分について情報を交換しながら，話を元通りに再現する。

prepared

closed

最初，最後，n番目など， 一部を明かしておく。	ノーヒントで実施する。

open

impromptu

※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例８】登場人物事典作り・登場人物クイズ

①物語などを読んで，登場人物ごとの情報をまとめる。

prepared

closed

登場人物名，紹介すべき事項が示された 記入用ワークシートを用意する。	紹介する人物，紹介する項目を 自分で決定させる。

open

impromptu

※読みながら情報をまとめるため，必然的にimpromptuな状況となる。

②物語の登場人物について質問し，答えとなる英文を見付ける。
③ある登場人物の描写を聞き（読み），それが誰かを当てる。

（ｲ）伝える（外国語表現の能力）

【活動例１】めざせ！なりきり名人

◎教科書の本文を，友達同士で役を決め，登場人物になりきって，感情を込めたり，場面や状況にふさわしい声色で読む。

prepared

closed

モデル・リーディング（CDなど）を忠実に再現する。	自分の解釈に基づき自由に脚色する。

open

impromptu

※音読の際に繰り返し練習を重ねるため，結果的にpreparedの状況となる。

【活動例２】自己紹介

◎名前，住んでいるところ，家族，所属クラブ，誕生日，好きなものなどを含めて簡単な自己紹介を行う。

prepared

closed

スピーチ原稿を用意して話す。
要点メモを用意して話す。
トピックリストを用意して話す。
要求された項目について，その場で話す。

open

impromptu

※自己紹介の内容に「自分の好きなもの」を含めるので，openな活動となる。

【活動例３】〇〇さんを紹介します

◎友だちや先生，ALTにインタビューし，その人を紹介する。

prepared

closed

インタビューの相手，質問項目を指定する。	相手，質問項目は，自分で決める。

open

impromptu

【活動例４】私はだあれ？

◎３つのヒントを聞いて（読んで），それが何であるかを当てるクイズを行う。

（例）答えがbananaの場合　1) I'm a fruit.　2) I'm yellow.　3) I'm long.
（例）同，発展編　1) I'm from a southern island.
2) Monkeys like me.
3) You ate me yesterday at lunch time.

prepared

closed

事前に作成した問題を出題する。
ジャンルごとに出題する。
ノンセクションで出題する。
その場でヒントを考案する。

open

impromptu

【活動例５】サークルのメンバー集め

◎I like …. / Do you like ...? / What …do you like?などの文を使って，同じ趣味の人を探し，サークルを作る。

prepared

closed

どんなサークルを作りたいかを事前に調査し，一覧にしておく。
作りたいサークルは自分で決め，事前には明かさない。

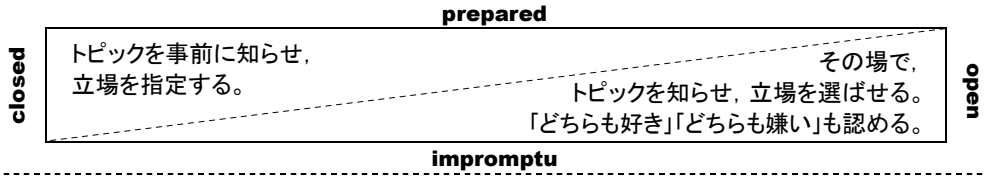
open

impromptu

【活動例６】どっちが好き？

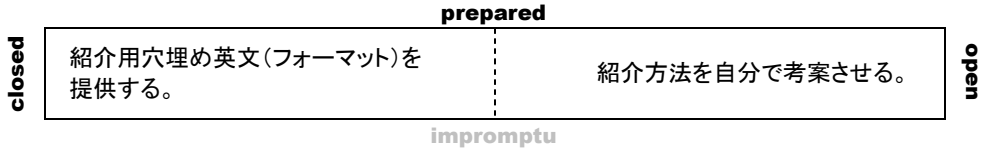
◎比較しやすく，中学生の体験や語彙力にあった２つのものを対象に，どちらが好きかを理由や例を挙げながら話す。（例）夏vs冬

◎I like both.やI don't like either.といった，生徒の気持ちを大切にした言い方の導入も心掛ける。



【活動例７】My treasure

◎自分の大切なものを，実物や絵，写真などを用いたり，実演を入れたりなど工夫しながら，相手にわかりやすく紹介する。（show & tell）

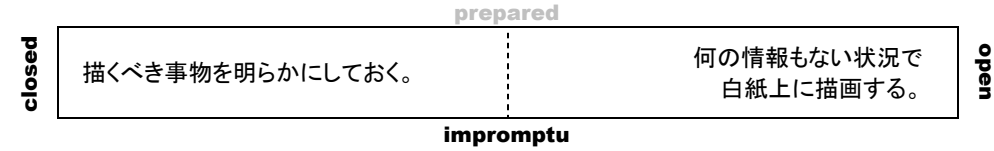


※十分な時間をかけて準備するため，preparedの状況となる。

【活動例８】ピクチャー・テリング

◎絵に表された内容を相手が英語で伝えてくるのを聞き，絵を再現する。

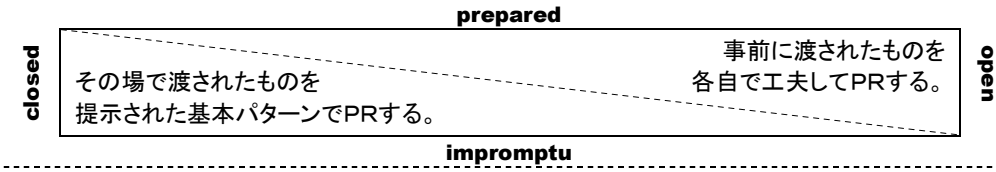
◎分からないときは確認するために質問する。



※情報交換しながらの活動であるため，必然的にimpromptuな状況となる。

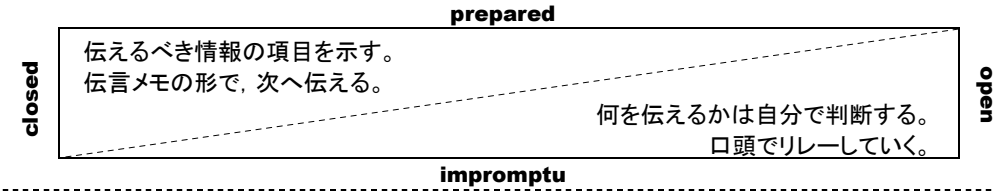
【活動例９】テレビ（ラジオ）・ショッピング

◎英字新聞や海外のパンフレットに載っている商品や広告など，値段が付いているものを利用し，その商品を買ってもらえるよう，特徴や優れた点などをＰＲする。



【活動例10】伝言ゲーム

◎「連絡網で電話がかかってきた」という設定で，話を聞きながら大切なポイントをメモし，次の人に伝える。



【活動例11】お話リレー

◎書き出しの英文に１文ずつ付け足して，話を展開していく。

prepared

closed

エンディングを指定する。	一切制限しない。

open

impromptu

※この活動に関しては，closedの方が難易度は高くなる。
※その場で書き足すため，必然的にimpromptuな状況となる。

【活動例12】桃太郎エピソードⅡ／桃太郎外伝

◎有名な話の続編や，登場人物・設定等を変えた番外編を創作する。

prepared

closed

基となる話を指定する。	基となる話も自由に選ぶ。

open

impromptu

※十分な時間をかけて創作に当たるため，preparedな活動となる。

(6) 文法事項を効果的に指導するための言語活動

ア　文法指導と言語活動の効果的な関連付け

文法事項の取扱いについては，中学校学習指導要領「２内容 (4)言語材料の取扱い」に，「言語活動と効果的に関連付けて指導すること」「用語と用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し，実際に活用できるように指導すること」と述べられています。

しかしながら，教育課程実施状況調査等からも，「英語の基本的な知識はある程度身に付いているものの，その知識を活用して自分の気持ちや考えを発信する力が付いていない」という実態が明らかになっています。

文法事項の説明に多くの時間を割くことは避け，生徒が理解した文法事項を活用する効果的な言語活動を十分に行わせましょう。その際には，**①文法事項の意味や機能を理解する**，**②練習を通して文法事項の意味や機能の理解をさらに深める**，そして最終的には**③文法事項を，自分の考えや気持ち，事実などを伝え合うことに生かす**，という**３つのステップ**が必要であることを意識しましょう。

ステップ１（理解）　文法事項の意味や機能を理解する

生徒とのoral interactionなどを通してtarget sentenceを提示します。その際，生徒に，

- できるだけ具体的で身近な場面の中で理解させる
- 既習の文法事項との関連に気付かせる
- 語順など日本語との違いに注目させる
- どのように英語で表現すればいいのだろうかという「問い」を持たせる

などの工夫が大切です。いい意味で説明は手短に行い，用語や用法に深入りすることのないようにして，次のステップで生徒が実際に使ってみて，その中で理解を深めていけるようにします。

ステップ２（練習）　練習を通して文法事項の意味や機能の理解をさらに深める

ステップ１で提示された文法事項を実際に生徒に使わせます。次のコミュニケーション活動で実際に使えるように，生徒に十分慣れさせる段階です。ここでの工夫としては，

- ワークシート，ゲーム，またペアワーク，グループワークなどを効果的に使う
- パターンプラクティス的な練習，基本表現の音読，繰り返し，暗唱も取り入れる
- 生徒の理解度をチェックして，必要に応じてステップ１に戻す

などが考えられます。単調にならないように，時間を区切ったり，適切な動機付けを行ったりして，生徒が習ったばかりの文法事項を実際に使うことが楽しいと思えるような活動にします。

ステップ３（活用）　文法事項を，自分の考えや気持ち，事実などを伝え合うことに生かす

ステップ２で習得した文法事項を，設定された言語活動の場面の中で，自分の考えや気持ち，事実などを伝えるために活用する応用の段階です。

- 分からないことをもっと聞きたいと思うような場面，状況をつくり出す
- 生徒が自分の考えや思いをもっと伝えたいと思うような活動にする
- 扱う文法事項以外に，既習の表現や文構造が使えるように仕組む

ことなどによって，より効果的な言語活動が展開されます。

【新出の文法事項の活動例】関係代名詞 who

ステップ１（理解）　oral interaction

- 絵を使って生徒と英語でやり取りしながら，関係代名詞whoの働きに気付かせる。
- 動作をしている何人かの人物の絵を見せ，“Look at the woman. What does she have?” “Look at the man. What is he trying to do?”などと質問をして，生徒に英語で答えさせながら，関係代名詞を用いない英文と，関係代名詞を用いた英文を口頭で導入する。

  Look at the woman. She has a cat in her arms.
  Look at the woman who has a cat in her arms.
  Look at the boy. He is trying to catch a cat.
  Look at the boy who is trying to catch a cat.
  Look at the girl. She is taking care of a cat.
  Look at the girl who is taking care of a cat.
- 両者の違いについて気付いたことをペアで話し合わせた後に発表させ，それに対してさらに質問をしながら，関係代名詞whoの働きを確認する。その際，日本語と英語の語順の違いにも気付かせる。

ステップ２（練習）　ペアで翻訳ワーク

- ペアでＡとＢのワークシートを使い，日本文を見てwhoを使った英文にする口頭練習を交互にして，お互いに英文をチェックし合う。

A

1. 向こうでサッカーをしている男の子を見なさい。	Look at the boy who is playing soccer over there.
2. ステージの上で踊っている女の子たちを知ってる？	
3. 私にはとても優しくて明るい友達がいる。	I have a friend who is very kind and cheerful.
4. カラオケがうまい友達が何人かいる。	
5. 私は決してあきらめない人になりたい。	I want to be a person who never gives up.
6.	

B

1. 向こうでサッカーをしている男の子を見なさい。	
2. ステージの上で踊っている女の子たちを知ってる？	Do you know the girls who are dancing on the stage?
3. 私にはとても優しくて明るい友達がいる。	
4. カラオケがうまい友達が何人かいる。	I have some friends who is good at karaoke.
5. 私は決してあきらめない人になりたい。	
6.	

- ＡとＢを交代したり，ＡＢがすべてを翻訳し終える時間を計ってタイムレースにして，目標の時間内に言い終えるまで何度も練習させたりすることもできる。

ステップ２（練習）　ピクチャー・テリング（P59の（ｲ）の活動例７より）

- 活動例７を，関係代名詞を使うようにアレンジしたもの。生徒は“Draw a ○○ who ….”とwhoを使って描く絵を指示し，指示された生徒は紙にその通りの絵を描く。
- 先行詞は人でもいいが，表現が限られてしまうので，例えば“Draw a Monster”という活動にして，“Draw a monster who has only one eye, three legs and a very big tail.” “Draw a monster who is taller than Tokyo Tower.”などとすると，様々な表現が可能になる。

ステップ３（活用）　〇〇さんを紹介します（P58の（ｲ）の活動例３より）

- 活動例３を，関係代名詞を使うことをタスクの一つとしてアレンジしたもの。
- インタビューシートの（1）～（3）の質問に沿ってペアの相手にインタビューした後，２～３組のペアが合体したグループ内で自分のパートナーを紹介する。紹介する時はイントロダクションシートの英文をヒントにして，下線の部分にインタビューで得た情報を関係代名詞whoを使って表現する。

INTERVIEW SHEET

(1)What do you enjoy doing most?

(2)Tell me about your (friend / teacher / mother / father / brother / sister / aunt / uncle / cousin). [Choose two] .

(3)Tell me about your ideal (husband / wife).　*ideal = 理想の

（Answerの例）I enjoy playing basketball the most. My mother is good at cooking. My friend is very kind and gives me good advice. My ideal husband is rich and handsome.

INTRODUCTION SHEET

She is a girl <u>who enjoys playing basketball the most</u>. She has a <u>mother who is good at cooking</u>. She has a <u>friend who is very kind and gives good advice to her</u>. In the future she wants to marry a man <u>who is rich and handsome.</u>

- 紹介するときはread and look upでシートから顔を上げてメンバーとのアイコンタクトを意識させながら紹介するよう指導する。顔を上げるタイミングはセンスグループ（意味の切れ目）で，ここでは例えばa girl, a boy などの先行詞と関係代名詞whoとの間，in the futureなどの時を表す副詞句と主語の間，動詞と動詞をつなぐandなど，普段から音読指導の際に慣れさせておくとよい。

イ　まとまりのある文法事項を言語活動で活用させる指導

関連のある文法事項については，学習指導要領「２内容（4）言語材料の取扱い」に，「まとまりをもって整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること」と述べられています。

既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を「まとめ」などとして比較対照しながら整理し，効果的な指導ができるよう工夫します。

（例）
- 現在形，過去形，現在完了形の指導の後，時制として整理
- 前置詞句，不定詞，分詞などを修飾という側面から整理
- 疑問詞で始まる疑問文を整理（間接疑問文の導入の前に効果的）
- 接続詞 when, before, after, because, if を「主語+動詞」の組み合わせが２つある文（複文）として整理
- 英語と日本語の語順の違いに焦点を当てて整理（文構造）

文法はコミュニケーションを支えるもので，円滑なコミュニケーション，内容を伴う豊かなコミュニケーションを図るための文法理解であることが前提です。「まとまりをもって整理する」ことは，このための効果的な指導方法の一つです。

しかし，整理してまとめた文法事項を指導する際にも，文法用語や用法の区別などの説明が中心になるのではなく，コミュニケーションを図る言語活動において活用することを目的とした指導が行われなくてはなりません。

そのためには，まとめて整理した複数の文法事項を同時に使用しなくてはならないような場面設定を工夫することが必要です。

【関連のある文法事項の活動例】現在形，過去形，現在完了形

ステップ１（理解）　インフォメーション・ギャップを利用した文法事項の復習とまとめ

- 既習の現在形，過去形，現在完了形の肯定文，否定文を含めた基本形をまとめたプリントをペアでインフォメーション・ギャップが生じるようにＡとＢ２種類用意し，説明をし合う。
- 例えば生徒Ａのプリントには現在形の説明や現在形の肯定文の形に関する情報が抜けていて，生徒Ａは既習事項を思い出しながら生徒Ｂに説明をする。Ｂのプリントにはその説明があり，生徒Ｂは生徒Ａの説明を聞いて確認し，足りない部分を補足する。

ステップ２（練習）　ペアやグループによる動詞の過去形，過去分詞形の言い慣れ

- ステップ３のコミュニケーション活動で，過去形や現在完了形の文を書いたり，話したりするために，生徒がつまずきやすい動詞の変化に十分に慣れさせる。
- ペアで動詞の活用表を使って交互に口頭練習する。パートナーが正しく言えているかチェックする。時間を計ってタイムレースをして，記録をとっていくとより集中できる。２つのペアが４人のグループになって，２対２のチームで時間を競う活動もできる。

ステップ２（練習）　パターン･プラクティス的なペアワーク

- 次のようなカードを用意する。
  play soccer + yesterday / play soccer + after school / watch TV + after dinner / study math + at home + yesterday / not eat breakfast + this morning / finish my homework + already / study English + for three years / climb Mt.Fuji + never
- 生徒Ａが裏返したカードを引く。カードの内容に合わせた英文を言い，それに関する簡単な質問を生徒Ｂに尋ね，生徒Ｂが質問に答える。
  I played soccer yesterday. Do you like soccer? ― Yes, I do.
  I have never climbed Mt.Fuji. How about you? ― Many times!
- 役割を交代し，同様のやり取りを行う。
- 相手の発言に対し，“Oh, really?”や“Oh, you have never climbed Mt.Fuji?”などと反応させることで，聞き手を育てる場面とすることもできる。
- パターンプラクティスではあるが，ペアでやりとりをしたり，疑問文に答えたりする要素を入れることによって，次のコミュニケーション活動につなげるような活動にする。

ステップ３（活用）　私は誰？（P58の（ｲ）の活動例４より）

- 活動例４を時制の英文を使うようにアレンジしたもの。生徒は自分を当ててもらうためのヒントの英文を，現在形，過去形，現在完了形を用いて1文ずつ，計３文書く。
- 英文を書いた紙を回収して，一人一人にランダムに配る。自由に歩き回り，yes-no question をして書いた人を探す。
- 各ヒントは関連していなくても関連していてもよいが，自分の特徴がでるように書く。

ヒント例1

I like “*One Piece*” because the story is very good.
I went to Disneyland last Sunday.
I have never been to Okinawa.
Who am I?

ヒント例2

I had a soccer game yesterday.
I have played soccer for ten years.
I want to go to Italy and watch soccer games.
Who am I?

会話例１

A: Hello. May I ask you some questions?
B: Sure.
A: Do you like “One Piece” because the story is very good?
B: Yes, I do.
A: Did you go to Disneyland last Sunday?
B: No, I didn’t.
A: Oh, thank you. Bye.
B: Bye.

会話例２

A: Hello. May I ask you some questions?
B: OK.
A: Did you play soccer after school yesterday?
B: Yes, I did.
A: Have you played soccer for ten years?
B: Yes, I have.
A: Do you want to go to Italy and watch soccer games?
B: Yes, I do.
A: Oh, this is about you.
B: Yes, I wrote it. Thank you.

- 整理して理解した時制の文法知識を使って自分自身のことを表現する活動と，書かれたヒントを読む活動，書いた人を当てるために質問する活動，そしてそれに答える活動を同時に行うことができる。

３　高等学校外国語科へのつながり

中学校・高等学校での外国語（英語）教育においては，４技能を総合的に育成する指導を充実することが求められています。「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について，自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し，「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる外国語（英語）によるコミュニケーション能力を伸ばすための授業づくりが必要です。

ここでは，中学校教師が，生徒の高等学校進学後の外国語（英語）学習を見通した上で，中学校での指導を考えることができるよう，高等学校外国語科の概要について述べます。

(1) 外国語科の目標

外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。（高等学校学習指導要領 第２章 第８節 第１款）

この高等学校外国語科の目標と中学校外国語科の目標を比較してみましょう。「外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深め，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り」という部分までは，同じ表現が用いられており，外国語（英語）教育の目標が中学校から高等学校まで貫かれていると言えます。その後の表現は，中学校では「聞くこと，話すこと，読むこと，書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」とあり，高等学校では「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」とあります。中学校における学習の基礎の上に，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能を総合的に育成するための統合的な指導を行い，生徒のコミュニケーション能力を更に伸ばすことが大切であるとされているのです。

(2) 必履修科目「コミュニケーション英語Ⅰ」

高等学校外国語科において，英語を履修する場合に，すべての生徒に履修させる科目です。科目の目標は次のとおりです。

英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 （高等学校学習指導要領 第２章 第８節 第２款 第２）

この科目では，中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，「聞くこと」，「話すこと」，「読むこと」及び「書くこと」の４技能を総合的に育成するための指導を行います。特に，聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合ったり意見の交換をしたりすることや，簡潔に書くことなどの統合的な言語活動が行われることが求められます。

指導する語は，「中学校で学習した語に400語程度の新語を加えた語」とされています。これは，指導する語の上限を示すという趣旨ではありません。活用形を全体として１語と数えたり，派生語をまとめて１語とすることもでき，中学校で学習した1,200語程度の語に400語程度の新語を，コミュニケーション英語Ⅰで学ぶことになります。

文法事項については，中学校において指導された文法事項についても必要に応じて繰り返し扱いながら，高等学校で新たに示されているものについて指導します。文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，言語活動と効果的に関連付けて指導することが求められるのは，中学校での指導と同じです。新たに扱う文法事項は次のとおりで，ここに挙げたすべての文法事項は，コミュニケーション英語Ⅰで適切に扱うこととされています。

◎不定詞の用法（原形不定詞の用法など）

- I saw Jane's children playing outside late at night the day before the big test. I think she should **make them study**, but she **lets her children do** what they want to.
- Mary was taken to the hospital yesterday after work. I **heard her say** that she was tired, but I didn't realize it was so serious.

◎関係代名詞の用法（先行詞を含む関係代名詞whatや非制限的用法など）

- A small girl came to the store to buy ingredients for miso soup. She wanted to make it for her mother. I sold her **what** she needed.
- Have you seen my new car, **which I bought last week**? It is the silver Honda in the parking lot.

◎関係副詞

- Can you tell me a day next week **when** you will be free?
- I know a field near Shizuoka **where** you can find wild strawberries.

◎助動詞（過去形，助動詞を含む受け身表現，助動詞と完了形を用いた過去に関する推測の表現）

- She **could** read *Thomas the Train* when she was four years old.
- Your life **might be changed** by this book. It has great ideas for saving money.
- "We went to Rome last month. We rode scooters around, saw the coliseum and ate so many different types of Italian food." "That **must have been** nice. Now I want to go."

◎代名詞のうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの（itを形式的に主語として用いるもののうち，itが名詞用法の節を指すものや，itを形式的に目的語として用いるもののうち，itが名詞用法の句及び節を指すもの）

- There is a powerful cold front coming in from the west. **It** is probable **that** there will be very high wind.
- I found **it** easy **to talk** to her. She listens carefully to everything I say and always smiles so I feel very comfortable.

◎動詞の時制など（現在完了進行形, 過去完了形など）

- I **have been working** all day. I started at 7:00 AM and it's already 9:00 PM. I really want to finish the project today.
- When the principal started talking about the new government policies in education, I realized that we **had met** before. At first I didn't recognize her, but I remembered that I **had had** the same conversation with her.

◎仮定法

- If I **were** you, I would stop smoking. It makes you get old faster and the risk of cancer is too high.
- You learn things very easily so I'm disappointed that you failed. If you **had worked** harder, you **would have passed** the exam.

◎分詞構文

- While I was reading this morning, I heard something outside. **Putting down my newspaper**, I walked over to the window. Then, I saw the most beautiful blue bird I have ever seen.
- I heard a child in the apartment screaming for 10 minutes. He sounded like he was hurt and scared. **Not knowing what to do**, I called the police.

(3) 具体的な活動

英文を和訳することや，文法について説明することに偏りがちであると言われていたこれまでの授業は，学習指導要領でも改善の方向性が明確に示され，例えば，次のような単元構想で授業が行われます。

◎教材　A Mug Is Not a Cup (NEW STREAM English Course I , Lesson 5, ZOSHINDO)

◎教科書本文の大意要約

(Part1)

日本での生活には和製英語が氾濫している。例えば，ヘルスメーターという単語を初めて聞いたときには，病院で使われているハイテク医療機器のようなものをイメージしたので，それが単にバスルーム・スケール（体重計）のことを指していると知ったときには驚いた。

(Part2)

マグカップという和製英語にも混乱した。英語では，カップという言葉が指すものは，小型で受け皿付きのものである。ティー・カップやコーヒー・カップを思い浮かべてもらえばよい。マグとは，もっと大きめのしっかりしたもので，受け皿なしで使われるものである。両方とも飲み物を飲むのに使うという点は同じだが，カップはカップ，マグはマグであり，マグカップとは言わない。

(Part3)

キッチンペーパーという言葉も和製英語である。これは英語では，買い物リストや引き出しにあるメモ用紙のような，台所にある紙，という意味になる。キッチンペーパーなる和製英語は，正しい英語ではペーパー・タオルと言う。

◎評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語・文化についての知識・理解
和製英語をテーマに，積極的なコミュニケーションを図ろうとしている。	和製英語の使用に関する自分の意見を，分かりやすく伝えることができる。	和製英語の抱える問題点を，整理しながら読み取ることができる。	和製英語を標準英語に言い換えることができる。

◎指導計画

(1) 単元全体への導入

身近にあるJapanese-Englishを紹介する。下記の表現について，実物やイラスト，写真を提示し，それが何かを尋ね，生徒が和製英語で答えた場合には正しい表現を示す。

① sharp pen, Hotchkiss, magic　　② fried potato, American dog, choux cream

③ jet coaster, TV game, wide show

(2) 生徒同士が英語でコミュニケーションする活動

導入で用いたJapanese-Englishを利用し，３人１組のスキット形式で，間違いを指摘・修正しあう。

①では，言い慣れることを優先し，パターンに当てはめる。

A: Do you have a Hotchkiss?　　B: A Hotchkiss? What is that?

C: (whispering to A) Hotchkiss is Japanese-English. You should say "stapler."

A: I see. Do you have a stapler?　　B: Oh, a stapler! Yes. Here you are.

②では，最後に一言，自分の意見を付け加える。

A: I want to eat an American dog. Do you know any good shops?

B: An American dog? What is that?

C: (whispering to A) American dog is Japanese-English. You should say "corn dog."

A: I see. I want to eat a corn dog. Do you know some good shops?

B: Oh, a corn dog! Sorry, I have no idea / I recommend *George's*.

③では，自分の考えを伝え，それに対する相手の意見を聞くことで，会話を発展させる。

A: I like jet coasters very much.　　B: Jet coaster? What is that?

C: (whispering to A) Jet coaster is Japanese-English. You should say "roller coaster."

A: I see. I like roller coasters very much.

B: Oh, really? Me, too. I think FUJIYAMA in Fuji-kyu High Land is the greatest. How about you?

(3) Part 1より，必要な情報（=health meterという和製英語が不適切である理由）の入手

First reading: Find Japanese-English terms and its correct name.

JE term: health meter ⇔ correct name: bathroom scale

Rereading 1: Find the image the name "health meter" gives to the author.

-- *high-tech device that you might see in a doctor's office*

-- *something in a hospital*

Rereading 2: Find the functions a health meter is expected to have.

-- *to check the percentage of body fat or blood pressure*

(4) Part 1本文の音読

(5) Part 2，Part 3より必要な情報（＝mug cup及びkitchen paperが不適切である理由）の入手

First reading: Find a Japanese-English term and its correct name.

mug cup(s) ⇔ mug(s) or cup(s)　kitchen paper ⇔ paper towel(s)

Rereading 1: Clarify the difference between cups and mugs.

cups: small and with saucers　　mugs: bigger, heavier and without saucers

Rereading 2: Find what is wrong with the name "mug cups."

-- *Both are used for drinking, but it can't be both.*

-- *There is a clear difference between the two.*

Rereading 3: Find the image the name "kitchen paper" gives to the author.

-- *paper that happens to be in the kitchen (and is used for shopping lists and things like that)*

(6) Part 2，Part 3本文の音読

(7) 本文から入手した情報を参考に，自分の考えを表現する活動

Expressing yourself 1

Using the information from the text, explain why the three Japanese-English terms are inappropriate in your own words.

health meter ⇒ *too high-tech, excessive advertising*

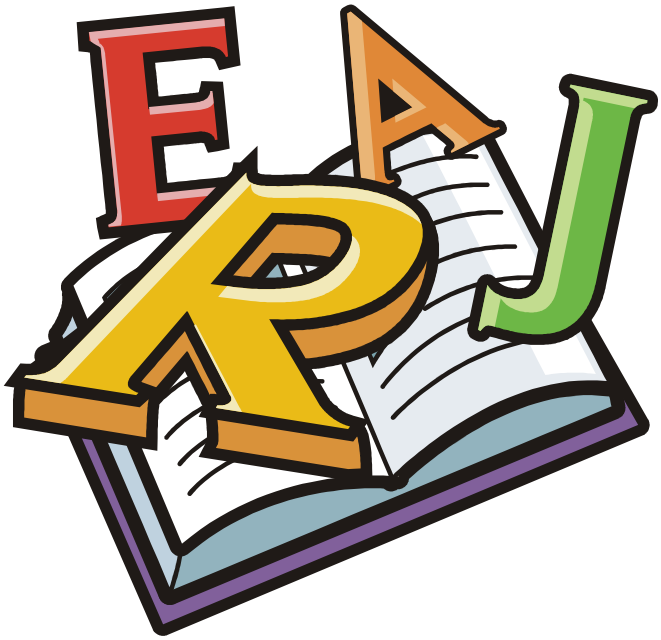
mug cup ⇒ *incompatible combination*

kitchen paper ⇒ *meaning something different*

Expressing yourself 2

Choose one of the Japanese-English terms you know and explain how that term would be misunderstood by native speakers of English.

(8)　単元目標の達成を図り，達成度を測るためのコミュニケーション活動（＝タスク）

「Japanese-Englishを，正しい英語だと思い込んで使用している友人に対し，それがどのような意味に解釈されるか，それがどのような印象を与えるか等について説明し，適切な表現に言い換えるよう促す」という想定のスキットを，３人１組で創作し，実演する。登場人物も３人とする。

外国語（英語）科の各科目の特質は，科目の目標が言語に関する技能そのものの習得であるということです。技能の習得には，実際にその技能を練習し，使ってみることが不可欠です。しかしながら，生徒の日常生活において外国語を使用する機会は非常に限られたものでしかありません。これらのことを踏まえて，ここで述べたような授業を行い，授業そのものを外国語（英語）を使う機会にすることが求められています。外国語（英語）によるコミュニケーションを体験できる授業づくりをしていくことは，小学校外国語活動から中学校での外国語学習へ，中学校での外国語学習から高等学校での外国語学習へと引き継がれているのです。